

緑の教育

始良・伊佐教育事務所 平成30年3月

緑の自然のごとく あしたをひらく豊かな心
緑の若葉のごとく あしたを創る確かな学力
緑の大樹のごとく あしたを担うたくましい身体



希望をもって始まる朝

所長 中山 恭平

暦の上では春になり、県内の梅の名所で清らかな梅が満開とのニュースが報道されていますが、まだまだ寒い朝が続き、本格的な春の到来が待ち遠しいところです。

さて、京都大学第16代総長を務めた平澤先生は、「朝は希望に起き、昼は努力・精進に生き、夜は反省と感謝で眠る。」と生前、よく好んで使っておられました。

「朝」をテーマにした歌詞の中にも、「新しい朝が来た 希望の朝だ 喜びに胸を開け 大空あおげ…」と始まる「ラジオ体操の歌」や、「朝の空を見上げて今日という一日が、笑顔でいられるようにそっとお願いした」で始まる朝ドラの主題歌がありますが、いずれも、その日一日を明るく生きていく第一歩が記されていると考えます。

とは言え、朝、起きるのが辛い、昼間の仕事が面倒に思える、嫌な気持ちを抱えたまま眠る、そんな経験は誰でもあるのではないのでしょうか。

先輩校長の在職中の話を伺う機会がありました。理不尽な要求をしてくるクレーマーが、昼夜を問わず電話をかけてきた時の話です。校長として誠意を尽くし説明をするものの、相手は一向に納得せず、途方に暮れる日が続き、いつの日か携帯電話の着信音に恐怖を感じる自分に気づいたそうです。しかし、そんな時でも、不思議と朝になると、なぜかほっとした気分になり、希望が見えるような気持ちになっていたと言われました。

私も、上司から「難しく、込み入った話を夜にするな」とアドバイスされたことを思い出します。夜は、一日の疲れもあり、ネガティブな話を早く片付けることに思考しがちな一方、一晩ぐっすり寝た翌朝は気持ちもポジティブで、いいアイデアが浮かぶような気がします。

どうして、朝になると気持ちが前向きになるのでしょうか。

年末、「今年の漢字」を書く姿がマスコミにもたびたび登場する清水寺の森清範貫主が「朝」について興味深いことを言っています。

「私はこのところ、皆さんに繰り返し言っている事柄があります。『朝、起きた時は感動しないといけません。』ということです。『朝』という漢字は『十月十日（とつきとおか）』と書きます。お母さんの胎内に十月十日宿って、そして生まれた時が『朝』です。私たちは毎朝、生まれ変わっているのです。」

この話を聞くと、朝、気分がリフレッシュしたり、前向きに考えられたりしたことに合点がいきます。昨日の自分と今日の自分は同一人物ではありますが、全く同じではありません。クレームやトラブルが、朝、目覚めたら解決していたということは、ほぼあり得ないことです。しかし、一日の始まり、できれば避けたい難しい課題に対して、少なくとも前向きに捉え、新しい取組を始めるそんな朝にしたいものです。

森貫主は、子どもや孫が生まれた時に感動したように、自分が毎朝、起きて生まれ変わっていることにどうして感動しないのかとも言っています。

さあ、今朝も子どもたちが元気に登校します。希望をもって教育活動を始めましょう。

学力向上へ向けた取組 ～授業改善で、学力向上を！～

鹿児島学習定着度調査から

(かごしま学力向上支援 Web システムの値による)

	国語	社会	算数・数学	理科	外国語
小学校5年	67.6(+0.8)	65.4(-0.3)	63.8(+1.1)	69.0(+0.2)	
中学校1年	64.9(-0.2)	51.7(-1.6)	60.0(-2.8)	54.2(-0.8)	62.4(-0.9)
中学校2年	65.9(+2.0)	58.8(+1.7)	59.2(+0.2)	46.1(-0.3)	59.8(±0)

() 内の数字は県との差

上の表は、1月に実施した「平成29年度鹿児島学習定着度調査」の各学年における教科全体の地区平均通過率です。県平均に届いていない教科が昨年度よりは減っており、県との差が-1ポイント以上の教科も減っており、各学校での授業改善の取組の成果が現れています。

しかし、学校毎の結果を見てみると、課題のある学年や教科もあります。各学校では、結果を分析し、補充指導を行うとともに、授業改善に取り組んでいただいています。通過率の低かった課題については、次年度に意識して指導できるような引継の工夫を行ってください。(例：指導計画の中に朱書をして、次の指導者が課題箇所を確認して、指導ができるようにする。)

「基礎・基本」「思考・表現」の結果は、今後提供しますので、授業改善の参考にしてください。

コアティーチャーネットワークプロジェクトから

児童生徒に「思考力・判断力・表現力」を身に付けさせるための授業モデルの検証・再構築を行ってきました。本年度のプロジェクトは、過去2年間の取組を踏まえた研究ということで、研究推進員・顧問の先生方には大変お世話になりました。



【プロジェクト研究会】

また、1月25日に開催した「始良・伊佐スキルアップセミナー」では、研究推進員による研究発表や参加された先生方との研究協議を行いました。参加された多くの先生方から、「学習課題の設定や発問の仕方など、工夫次第で授業はいくらでもおもしろくなることを改めて感じた。」「教師自身が学ぶ姿勢を大切にし、楽しく取り組むことで、児童生徒も教科等により親しむことができると感じた。」といった感想が寄せられました。

授業改善を続けることが、児童生徒の学力向上につながることを再認識したのではないのでしょうか。研究の内容は、後日配布される、地区教育実践事例集「緑の教育」に掲載してあります。各学校で積極的に御活用ください。

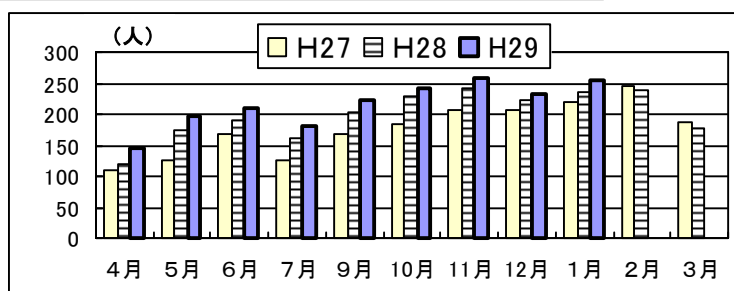
研究推進員からは、「今までの自分の授業づくりについて、新しい考え方のヒントを得られた。」「同じ教科の先生方と研究を進めていく中で、改めて教科の本質を見つめ直し、おもしろさを実感できた。」「思考力・判断力・表現力を伸ばすことが、基礎・基本の力をつけることにつながることを実感した。」等の感想が寄せられました。



【スキルアップセミナー
参加者との研究協議】

不登校対策の充実を ～不登校に対する基本的な考え方を確認しましょう～

右のグラフからも分かるように、ここ数年、管内の不登校児童生徒数は、増加の一途をたどっており、生徒指導上の大きな課題となっています。「どの児童生徒にも起こり得る」と捉えるとともに、今一度、基本的な考え方を確認してください。



1 不登校解決の最終目標は社会的自立である。

不登校の解決にあたっては、「心の問題」【月別不登校児童生徒数，月7日以上欠席者数】としてのみ捉えるのではなく、広く「進路の問題」として捉えることが大切です。不登校児童生徒一人一人が、個性を生かし社会へと参加しつつ充実した人生を過ごすための道筋を築けるよう援助する必要があります。

2 不登校を見極め適切に対応するために必要なネットワークを構築する。

原因も状態も複雑化・多様化しています。児相や子育て支援課等の公的機関だけでなく民間施設等とも積極的に連携したり、小・中学校間で情報を共有したりすることが重要です。

3 すべての児童生徒にとって居場所となる学校を目指す。

未然防止、学校復帰という視点からも「不登校児童生徒にとって居心地のいい学校は、すべての児童生徒にとっても居心地のいい学校」であることを意識した学校づくりが大切です。

4 関係を構築しつつ、適切な働きかけや関わるのが大切である。

対応の多様化が求められます。本人や保護者との関係を丁寧に築きながら、その都度、見極めを行い「誰が、いつ、どのような関わりをすべきか」を判断しましょう。

5 保護者を支え、家庭の教育力を充実させる。

保護者に対し担任や養護教諭が相談に応じたり、必要な専門機関を紹介したりするなど適時適切な対応を行うことが、本人へ間接的な効果を及ぼすことになります。

M o m ! 学級づくり連続講座 ～本音でつながる仲間とともに～



【第7回連続講座での修了式】

《受講者の実践記録のまとめ》

「大切な学級の空気」

学級の中で自分の意見をきちんと言える雰囲気をつくるのが、私が「M o m !」で学んだことである。そのためには、「全員が大事だ」「全員が学級を作るんだ」という教師の思いを学級の皆が共有しなければならない。Mさんの意見を学級に広めるために、私は話し合い活動の仕方を入念に指導してきた。自信をもって本音で話ができるよう、一人一人の学力に心血を注いだ。そうしている中で、Mさんが変わった。しかし、Mさんだけの力ではなかった。周りの子供たちの話し方が優しくなった。周りの子への気配りが密になった。Mさんをサポートするうちに、学級の全体が、自然と仲間のために動く集団になってきたように感じた。これから、この学級は、6年間持ち上がっていく。5人が変わらず仲間を大事にしていく子どもであり続けるために、私はどう関わっていくべきか、さらに考えていこうと思う。

特別支援教育の充実に向けて ～切れ目のない、学校間での連携した引継ぎ～

教育事務所に配置された「学校間連携コーディネーター」が区内の小・中学校と4つの高等学校を訪問しました。合理的配慮を必要とする児童生徒は、区内でも増加の傾向にあります。今後とも児童生徒への適切な支援及び将来の社会参加のために、「入学から就労まで」の支援を確実に引き継ぎ、切れ目のない支援をしていく必要があります。

学校訪問を通して、移行期における引継ぎの仕方や方法について、以下の課題が明らかになりました。

課 題	対 応 策
① 口頭での引継ぎの不確実さ（児童生徒の様子がイメージとしてつかみにくい。）	① 資料で引き継ぐ。日頃の学習や行動に配慮していることなどを伝えると、スムーズな移行支援につながる。
② 資料作成に係る、保護者の理解の得にくさ（移行支援シートの作成など、保護者の承諾を得にくい。）	② 「できないこと」ではなく「上手くいった方法や事例」を紹介し、そのことを次へ引き継いでいくことを理解していただく。
③ 「引き継ぐ側」「引き継がれる側」の情報内容の不一致（引き継ぐ側が「引き継ぎたい情報」と、引き継がれる側が「欲しい情報」が一致しない場合がある。）	③ 「引継ぎ会（連絡会）」を行う前に、引き継ぐ側と引き継がれる側で、どのようなことを引き継ぐのか、内容について情報を共有しておく。

「いつ」「何を」「誰が」「誰に」「どこで」「どのように」引き継ぐかが大切です。児童生徒が安心・安全に学校生活を送るためにも、継続した支援となるよう、年間を通して連携してください。

「生きる力」を育む食育の推進～「鹿児島をまるごと味わう学校給食」の取組～

国は、食育の推進により、望ましい食習慣の形成と栄養バランスの改善を行い、農林水産物や食品の正しい理解を図り、地域の優れた食文化を継承することを目指しています。また、第3次かごしまの“食”交流推進計画では、学校給食における地場産物（重量ベース、おかずのみ）の使用割合を70%以上に数値目標を設定して取組を推進しているところです。1月には「鹿児島をまるごと味わう学校給食」が実施され、それぞれの学校において、県内産の食材を活用した郷土料理や生産者との交流会をおとした感謝の心を育む食育が推進されました。

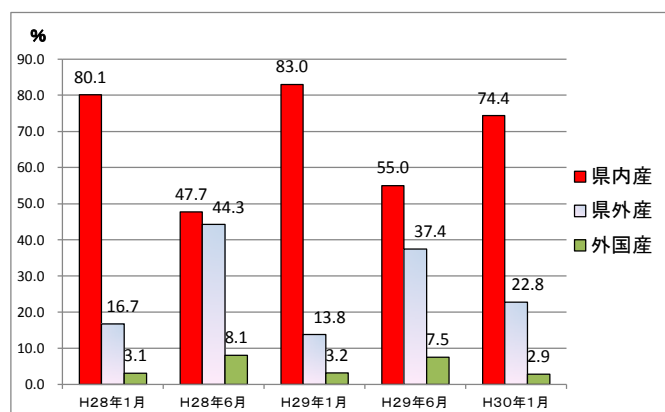


【鹿児島をまるごと味わう学校給食において参考となる取組】（H29年12月実施計画調査票より）

- 地場産物や郷土料理の資料掲示
- 生産者との交流給食
- 調理員や生産者の方々へ感謝の手紙
- 箸の使い方コンテストの実施
- 食育に関する絵本の読み聞かせ
- 地元食材の重さ当てやクイズ
- 栄養教諭による食に関する授業



【栄養教諭による食に関する指導】



【H30年1月学校給食における地場産物活用状況調査結果】

学校体育に関する学校訪問を終えて～運動の特性を十分にとらえた授業へ～

本年度、管内の小学校4校、中学校3校を訪問し、授業参観や、教科体育・教科外体育、幼保小中連携の取組状況についての情報交換を行いました。その中で最も多かった話題は、学習指導に関する授業づくりの視点でした。

そこで、器械運動を例に挙げます。そもそも器械運動は、様々な器械の条件に規定されて生み出された「技」に挑戦し、これを達成したときに楽しさや喜びを味わうことができる運動です。日常生活の運動からかけ離れた非日常的な巧技的運動であることから、複雑な姿勢の変化やそれに伴う多様な運動感覚の体験ができます。一方、技の「できる」「できない」がはっきりしているため、技ができたときの達成感は大きいですが、技がどうしてもできないときは、悲壮感が大きくなります。



授業の目的を踏まえると、器械運動の授業づくりの視点は、以下のとおりです。

- 1 自己の能力に適した技を選んだり、課題が易くなるような場や補助具を活用して取り組んだりしながら、基本的な技ができるようにする。
- 2 一人一人が自己の課題をもって工夫しながら活動に取り組み、仲間と互いに励まし合い、助け合って学習を進めていくことができるようにする。
- 3 技の選び方、器械・器具の点検、安全な場の確保等について、安全に学習ができるようにする。

来年度も、学校体育に関する学校訪問を実施します。1校でも多くの学校を訪問させていただき、一緒に授業づくりや体力向上について意見を交換したいものです。

平成 29 年度始良・伊佐地区生涯学習推進大会～生涯学習によるまちづくり～

平成30年2月4日、始良・伊佐地区生涯学習推進大会を伊佐市菱刈農業環境改善センターで開催しました。当日は、雪の舞う天候の中にもかかわらず、ほぼ満席となる306人の参加がありました。この生涯学習推進大会は、地区内の生涯学習の一層の振興を図るとともに、潤いと活力のあるまちづくりを目的として始良・伊佐地区社会教育振興会と始良・伊佐教育事務所が開催しています。

大会の冒頭で、社会教育振興に功績のあった方々の表彰式を行いました。被表彰者と表彰部門は下表のとおりです。表彰の後、霧島神楽振興会（霧島市）、夢げん太鼓+シャイニーストーンズ（伊佐市）、ジュニア・リーダークラブ「どんぐり」（始良市）、栗野健康体操教室（湧水町）によるそれぞれの活動発表とNPO法人食育研究会「らく楽料理教室」理事長の榎木春幸（なぎ・しゅんこう）氏による講話がありました。

参加者から、「それぞれの立場でいろんなことで頑張っている様子が分かり、自分も元気ももらいました。」と今後の活力にできたとの感想をいただきました。

来年度は、平成31年1月中旬に始良市で開催する予定です。

被表彰者・団体（市町村）	表彰部門
羽祢田 博 信（伊佐市）	地域づくり
瀬戸ノ上 艶 子（伊佐市）	社会教育団体活動
有 村 穆 尚（始良市）	地域づくり
谷 山 榮 厚（湧水町）	文化振興
角 展 行（湧水町）	文化振興
日韓親善子供大使友好の翼 実行委員会（霧島市）	社会教育団体活動
霧島神楽振興会（霧島市）	芸術文化活動



かごしま国体のジュニア選手発掘に向けて



本庁競技力向上対策室は、8月28日にかごしま国体で活躍が期待できる有望なジュニア選手に対し、「チームかごしま」ジュニアアスリート認定証を授与しましたが、管内からは22競技88人が選ばれています。

また、一部の競技において、早急に候補選手を確保する必要があることから、教育事務所では、選手募集のチラシ・ポスターを作成し、全中学校に配布しました。併せて、数校の中学校の学年集会に出向き、生徒に対して説明をしました。

国体の競技力向上の一環として、霧島市立国分中央高等学校「なぎなた部」の生徒が霧島市立国分南中学校を訪問し、基本技や応用技の実演、中学生への体験活動を行いました。

来年度も、ジュニア選手の発掘のために、各中学校に訪問し、主に中学3年生に対して、国体の競技に関して直接話をさせていただきます。また、候補選手を確保する必要がある競技について、中学校での実演や体験活動もお願いいたしますので、御協力をお願いします。

なお、管内の正式競技・公開競技の競技会場は右記のとおりです。

「燃ゆる感動かごしま国体」始良・伊佐地区での競技日程

総合閉会式：10月3日 総合閉会式：10月13日

【正式競技】			
市町名	競技名	競技会場等予定施設	開催日
霧島市	サッカー（女子）	国分運動公園陸上競技場 国分運動公園多目的広場 まきのほら運動公園多目的広場	10月8日～ 10月12日
	ハンドボール（全）	国分中央高校体育館 横川体育館 清辺体育館 国分体育館 集人体育館	10月4日～ 10月8日
	馬術（全）	牧園特設競技場	10月7日～ 10月11日
	剣道（全）	牧園アリーナ	10月4日～ 10月6日
	銃剣道（全）	国分中央高校体育館	10月10日～ 10月12日
	ゴルフ（成年男、少年男）	霧島ゴルフクラブ 清辺カントリークラブ	10月7日～ 10月9日
伊佐市	カヌー（スプリント：全）	菱刈カヌー競技場	10月9日～ 10月12日
始良市	バスケットボール（成年男女）	総合運動公園体育館 衛生体育館（おおくすアリーナ）	10月8日～ 10月12日
	ライフル射撃（CP：成年男）	県警察学校	10月4日～ 10月7日
	ゴルフ（女子）	鹿兒島乗牧カントリークラブ	10月7日～ 10月9日
湧水町	カヌー（スラローム：成年男女）	轟の渚特設カヌー競技場	10月9日～ 10月12日
	カヌー（ワイルドウォーター：成年男女）		
【公開競技】			
市町名	競技名	競技会場等予定施設	開催日
霧島市	グラウンドゴルフ	丸岡公園緑地公園	9月26日～ 9月27日

交通事故・違反の防止について ～県民の信頼に応える教職員として～

交通事故については、油断による前方の安全不確認に起因するものであり、危険予測しながら安全確認を怠らずに運転していれば防げたものばかりです。また、交通違反についても、急ぐあまりに速度標識や速度計の確認を怠ったことに起因するもので、心や時間の余裕をもち、安全運転に心掛けていけば防げたものです。私たち教職員は教育に携わる者として、児童生徒の模範となるべく、常に自らの行動規範を確立するとともに、交通事故を起こすことにより、公務員としての信用失墜につながることを常に認識することが大切です。

編集後記

平昌五輪が終了した。フィギュアスケートの羽生選手やスピードスケートの小平選手の金メダルは、ことのほか嬉しかった。怪我の克服、苦節を乗り越えての栄冠獲得、金メダルに一番近いというプレッシャーをはねのけての受賞にホッとした。

昨今、どの分野でも若手の台頭がめざましく、彼らのインタビューに答える一挙一動に注目が集まる。彼らが自分の思いをしっかりと話す姿に驚かされる。五輪選手はもちろん、大リーグの大谷選手、卓球の張本選手、将棋界の藤井棋士らもわかりである。彼らをここまで成長させたものは何だろうか。テレビを見ながら、ふと、そんなことを考える。

今年度多くの学校で、児童生徒の自己肯定感が低いという言葉聞いた。「子どもの自己肯定感を高めたい。」学校の切実な願いであろう。森信三氏の『天からの封書』にあるように、一人でも多くの子どもたちが、人生のできるだけ早い時期に、自分に与えられた天からの封書を自ら開き、自分の人生に指針をもてるように、学校の力を発揮したい。今年度の教育活動の反省を踏まえ、次年度に向けて、夢と希望に満ちた教育課程編成が行われることを願う。

（「天からの封書」には、それぞれ自分がこの世に派遣せられた使命の内容が書き込まれている。」とある。）